



小沢 一男

## 周智高空き教室の利用を

特別支援学校・学級生の放課後児童クラブの会場としての利用を県に要請できないか？

▼今の段階で要請することはいかがかと思う

ている。

問 発達障害者向けの高校（特別支援学級）が、10月1日から周智高校跡でモデル事業を開始する、と報道された。

町長は、所信表明で「引き続き保護者のニーズに対応し、一層の子育て環境の充実を図る」と言っている。

現在、特別支援学校・学級に通う児童・生徒の放課後児童クラブ（どんぐり）は、専用の会場を持たずに運営している。旧周智高の利用を県に要請できないか。

また、それができない場合でも、他の場所に専用の会場を確保する考えはないか。

町長 現在どんぐりは、保健福祉センターの機能回復訓練室などを使用し

はいかがかと思う。

また、どんぐりの会場についてはアンケートでは、半数は「単なる空いた部屋よりも保健福祉センターが良い」という意見であり、現段階では今のままの形態が良いと考えている。

運営に特段の支障はない。

県教育委員会は現在、特別支援高校開設の準備に追われており、今の段階で利用を要請すること

その他の質問

- ・新聞活用の実践
- ・認知症サポーター養成講座



現在「どんぐり」が使用している機能回復訓練室（保健福祉センター）



片岡 健

## 21世紀は観光の時代

森町の観光産業の見直しは？  
▼観光基本計画の策定を検討していきたい



多くの人が訪れた観光ウォーク(城ヶ平公園)

21世紀は観光の時代である。観光はすそ野が広く、多くの分野に経済効果が波及し、雇用や税収などの増加をもたらす産業であると考えている。

当町においても、森町の資源・財産である自然、文化、歴史を活かしたグリーンツーリズムや民泊事業、農産物を活かした地産地消、地域の特長を活かしたB級、グルメや特産品開発を一層推進していきたい。

新東名の供用開始を契機として、新たな観光施策の基本的な目標・指針となる観光基本計画の策定について、他市町村の観光計画の調査・研究も含めて、今後検討していきたい。

問 新東名の開通により、物流の利便性が良くなり、地域的な価値も上がる。

町長 森町への入り込み客数は、平成5年度に220万人だったが、17年度には87万人まで落ち込んだ。21年度には98万人となり、一時減少傾向にあったものが、近年は微増傾向となっている。

るか。

地域活性化の大きな要因となる観光産業の見直しをどのように考えているか。